



## 最近の日本人に失われつつあるもの：自発的に見て学ぶ

このたび高知大学の西脇先生よりバトンを引き継ぎました、警察庁科学警察研究所の笠松です。西脇先生とは以前SPring-8での研究で一緒したことがあり、色々とお世話になりました。

さて、日本人という口に出さなくても意思が伝わる、以心伝心を前提として文化が成り立ってきた側面があると思います。あえて言葉にするまでもなく、常識による共通の基盤がどこかにあって、それにより物事が取り計らわれてきました。対して多民族国家では、共通の基盤や前提といったものはないため、すべて明示する必要があります。最近、取扱説明書で警告や注意などの項目が数多く書かれていますが、グローバルに仕事をするにはこのような傾向も仕方ないのかもしれない。しかしそういった社会により、日本人の意識も変化してきたとも言えます。

情報が多いことは一見良いように思えますが、それにより頭の処理能力が飽和し、自ら考える割合を減少させてしまいます。結果、相手の思っていることは言葉で聞く、あるいは文字として読まないとならなくなってきたのかもしれない。社会でのやり取りのみならず、夫婦間においても以心伝心による感謝の気持ちは伝わっていない可能性が高いので、「今日の夕食はおいしかったよ」や「いつもお仕事ありがとうございます」など具体的に口に出すことはとても重要です。これまで言ったことがなかった方、勇気を出して言ってみてください。

さてさて元に戻って、情報の過多による満腹感からか、ハングリー精神も低減しているように思われます。料理人を希望する人が修行に入っても、下働きばかりでちっとも教えてもらえない、と嘆くかもしれません。しかし、誰がそんな下っ端にわざわざ時間を取って手取り足取りを教えるでしょうか。プロの技を近くで見る機会を与えられていること自体がすごいことであり、職人の技を間近に見て獲得できるか否かがその人の素質なのです。

ここで質問です。分析装置が故障し、業者に修理を依頼した際、皆さんは修理中どうしていますか？

A：よろしくお願ひしますと言ってその場を立ち去る

B：傍らにいて、始めから終わりまでじっくり観察する

修理に来ている人は、その機器に対して特別に知識を持った人です。有料のメンテナンス講習会なるものもありますが、マンツーマンでしかも実機を前に教わることができる減多にないチャンスです。無駄にしませんか？ 分析機器の修理に限らず、家の外壁塗装、エアコンの取り付けや車の分解整備など、職人の作業はこの上なく良い教材です。注意深く観察し、自分のものにしようとする習慣は大切です。実験に限らず、事務仕事や業

務の流れについても同様ですので、「自発的に見て学べる人」を「優秀な人」の傍らに置いておけば、事業の継承に問題はないでしょう。

当研究所の仕事においても、作業の方法で職人技的なところもあります。例えば、微細試料の取り扱い、具体的には50ミクロンのガラス1片、無くさずに取り扱えますか？ 鑑定資料（当研究所では、鑑定対象が「試料」であっても、“研究、調査の基礎となる材料”という意味から慣例的に「資料」と書きます）ともなると紛失は許されません。研修生に各自の方法で実施してもらおうと、何人かは紛失します。ところがちょっとした工夫をすることで、そのリスクがほぼゼロにまで軽減できます。手順を示す際、「私はこうしますが」と言って、作業一つ一つを口に出しながら実演していくようにしています。ハングリーな日本人であれば、何も言わずに一度見せるだけでも良いのかも知れませんが、現代において、しかも実習指導となれば、口で説明しながら実演、これが欠かせません。

マニュアル依存症の人もいて、そのマニュアルはないですか、とも言われます。しかし言葉で表現しきれない部分もあれば、読み違いによる誤解が生じる可能性もあります。詳細に書けば分量が多くなりすぎて読まず、逆に遠ざかってしまう懸念さえあります。そして一番の問題は、そういう人はマニュアルに書いていることしかできない傾向があるのです。つまり、自ら考える創意工夫を苦手とするのです。マニュアルだけで済むのであれば化学の実習は必要なく、医学の臨床研修も必要ないのではないのでしょうか。「百聞は一見にしかず」という言葉があるように、実際に見ることで得られる情報量は桁違いに多いのです。それが実習が必要な訳であり、私が言うところの職人技の獲得につながるのです。ちなみに、「百聞は一見にしかず」には続きがあり、「百見は一考（考えること）にしかず」、「百考は一行（行動すること）にしかず」、そして最後は「百行は一果（成果のこと）にしかず」です。「百聞は一見にしかず」は漢書を出典としますが、続きの部分は後世に追記されたものであると言われてます。結果が求められるご時世、最後の段階のみ注目してしまいそうですが、努力を怠ってはいけません。私はいちばん最初の言葉が最も重く、大切であると思っています。

さて、紙面も尽きましたので筆を置きたいと思ひます。次は東京工業大学の岩井貴弘博士に引き継ぎたいと思ひます。共同研究の打ち合わせで当研究所へお越しの際にお声掛けさせていただきました。急な依頼にもかかわらず快くお受けいただきました。心より感謝申し上げます。

〔警察庁科学警察研究所 笠松正昭〕